にやさしい
21世紀包装
やさしさのあるパッケージ創り
分解性
ジのことなら
を考えたパッケージ開発
包装株式会社
9-28 TEL.06(6782)0661(代)・FAX.06(6782)0667

発行所
60th plus1
日報ビジネス株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〉〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5
電話03(3262)3463 FAX03(5276)4431
〈大阪〉〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11
電話06(6262)2402 FAX06(6265)7127

2月5日 No.2826
2018年（平成30年）
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
昭和41年9月22日 第3種郵便物承認
購読料 年間 23,900円＋税
（定価） １部本体 509円＋税

包装タイムス
THE HOSO TIMES

General
Packaging
Industry
GPI
ゼネラル・パッケージング・インダストリー
イノベーションで
包装を超える。
レンゴー

ミヤコシ

間欠オフで軟包装印刷

2月20、21日にオープンハウス

四国化工が3月に導入

ミヤコシ（千葉県習志野市、☎047・493・3854）が開発した軟包装印刷を小ロット、低コスト、無溶剤で実現する間欠式オフセット輪転機「VAR18B」を、共押出多層インフレーションフィルムメーカーでグラビア印刷も手掛ける四国化工（香川県東かがわ市、☎0879・23・3111）が3月中に導入する。

これまで軟包装印刷といえばグラビア印刷方式が主流だ。ただグラビア印刷の場合、版そのものが高コストで、製版工程も時間が掛かる。さらに特色も多いことから、インク交換も頻繁で段取りにも時間を費やすことから、小ロット対応は難しいとされてきた。しかも、グラビア印刷は有機溶剤を使用することから、十分な環境問題対策が求められる。

ミヤコシが開発した間欠式オフセット輪転「VAR18B」は製版が極めて容易で、軟包装を印刷するコストもグラビア印刷に比べ極めて低く抑えることができる。さらにオフセット印刷の課題であった、天地サイズ変更についても、間欠方式を採用することで、版胴交換が不要になり、ジョブ入れ替え時間を大幅に短縮することができ、本機校正も可能にした。しかも、溶剤を使用しないので、環境に負荷を与えることのない軟包装印刷を実現した。

こうした間欠式オフ輪により、従来困難とされてきた軟包装印刷に小ロット印刷を、短納期、低コストで実現することが可能になった。

「VAR18B」を実際に設置することを決めた四国化工の入交正之社長は「長年気になっていたオペレーターの健康問題からも解放される」とコメントしている。

ミヤコシでは今回の「VAR18B」の納品を前に、2月20日と21日の両日、同社の製造会社である宮腰精機の国見工場（秋田県大仙市大田町国見字稲荷堂162）において、オープンハウスを実施する。軟包装印刷を手掛ける全国のグラビア印刷会社はもちろん、オフセット印刷会社にも来場を呼び掛けている。

光文堂

8442人が来場、大盛況で閉幕

デジタル印刷機、後加工機が集結

テープカットを行う讃岐社長（中央）と業界団体の代表者

光文堂主催の新春機材展「Print Doors2018」が1月25日、大盛況のうち閉幕した。2日間の開催で8442人が来場。学生をはじめとする一般来場者の参加も目立つなど、情報交流の拡大が図られた。

オープニングセレモニーの冒頭、あいさつに立った讃岐秀昭社長からは過去最大規模となる155社375小間での開催を報告。出展社や後援団体へ、感謝の意が述べられた。

今年の事業計画については、今夏完成予定を目指す本社工場のリニューアルオープンを発表。「2月末には全国七つ目の地域拠点となる金沢支店を新設し、地域に根差した営業展開に力を注ぐ」とした。「今後もスピーディーな情報発信に努め、生まれ変わった想いで、次なるステージを目指す」と結んだ。

最新印刷機材が集結する同展は毎年規模を拡大し、今年で54回目を迎える。実機実演での展示や、印刷コンバーターによるオリジナル製品の発表が多く、各社、新製品のお披露目の場として活用されている。

近年ではパッケージやシール・ラベルに関する展示物も増加しており、今回初出展の三條機械製作所では、デジタル印刷機と後加工機の連動機を出展。印刷業界全般への提案を行った。

光文堂ブースでは、水性インキ対応のインクジェットプリンターを展示。海外来場者からも高い関心が寄せられていた。そのほか自走式のストレッチフィルム包装機やデジタルコンテンツを多数発表。印刷業者が抱える課題解決に向けた提案を行った。（関連記事4面）

RP東プラ

機能性シートを増産

5種7層対応製品を本格提案

アルピィ東プラ（＝RP東プラ、大阪府吹田市、☎06・6330・1521）は競争力確保へ差別化製品の提案に力を注いでいる。PPを主体とする5種7層対応の機能性シート「ノアバリア」の引き合いが高まっており、今秋稼働に向け生産体制の増強を図る。本格稼働により今後、需要の裾野を一段と広げるものと注目されている。

同社はこれまで、食品容器の長期保存に役[illegible]ール性、耐熱性、NYバリアなどを付与しリニューアル化を推進。5種7層対応を実現した機能性シートとして透明性や耐熱性、耐寒性を考慮したタイプなど多彩なグレードをそろえており、多様ニーズに応える製品設計を行うことも可能。競争優位性を備えた製品として拡販に努めている。

馬工場に生産設備の増設を決めた。生産設備の稼働は9月頃を予定しており、生産の効率化を進めながらマーケット優位性に拍車を掛ける考えだ。

現在、同社が進める中期経営計画「RP17」は最終年度にあたり、組織改革・営業ポートフォリオ変革・生産革新活動を推進してきた。とりわけ食品分野向けシート製品の生産能力増強は現中計のポイントに挙げられている。次年度から始まる新中期経営計画「G[illegible]

ーマ
包装の底力
包装の本質と重要な役割を
の底力を照らし出します

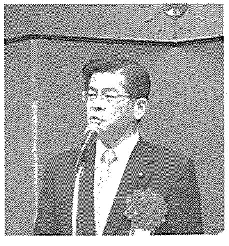
物流連

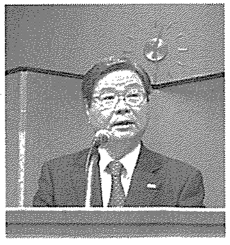
“変革する大きな力”を

物流業界のトップ約300人が出席

日本物流団体連合会（田村修二会長）は1月24日、東京・平河町の海運ビルにおいて「新年の物流を語る会」および「新年賀詞交歓会」を開催した。「新年の物流を語る会」には会員、関係者約270人が出席し、物流9団体の代表者が、それぞれ前年の回顧と新年の展望・抱負を語った。その後、約300人の出席による「新年賀詞交歓会」が盛大に開催され、来賓として出席した石井啓一国土交通大臣もあいさつを述べた。

賀詞交歓会において田村会長は「景気が回


石井国土交通大臣


あいさつする田村会長

参加者募集
インはもう始まっている！
新作パッケージを予測
ケージ研究会では、すでにスタートを切っ
ン・パッケージ商戦を予測する。パッケ
るトークセッションも開催。バレンタイ
での裏側を語る。ワークショップでは、
新たなパッケージ開発にも取り組む。
2日（金） 13:45～16:45
創造館6階会議室AB
(税込)、交流会参加者は1万円（税込）
(金)までの申し込み、または1社2人以上